



一小学校だより

令和7年12月1日号
日野市立日野第一小学校
校長 小川 真由美
TEL 042-581-0061



学校ホームページ



みんなの器に満ち溢れるものは…

～1年の締めくくりに向けて～

校長 小川真由美

今年のカレンダーも残り1枚となりました。12月は和名で「師走」ですが、他にも1年の終わりである「極まる月」という意味から「極月（ごくげつ）」や、新年を迎える春を待つ月という意味から「春待月（はるまちづき）」などとも言われます。また、「年満月（としみつづき）」という異称もあり、1年間という時間がさまざまな経験や思い出で満ちる月という意味合いがあります。子供たち一人一人も令和7年（2025年）という器が溢れるほど、かけがえのない経験をし、思い出もたくさん作ってきたことだと思います。その器に今週末「学習発表会」という経験が加わります。きっと令和8年（2026年）につながる確かな経験になると思います。保護者の皆様には、恐れ入りますがご家庭で体調管理に気を付けていただけすると大変ありがとうございます。よろしくお願ひします。

さて、11月の下旬に道徳科の全国大会に出席するため広島に行ってきました。被爆80年を迎える節目の年だったこともあり、原爆資料館を訪れてみました。展示された物やその説明文を見て、原爆で亡くなった子供たち、未来を変えられてしまった子供たち、重い障害をもって生まれてきた子供たちのことを知るにつれ、普段はほとんど考えることのない「平和の大切さ」について様々な思いを巡らしました。

資料館から出るとすぐ、2本のアオギリの木がありました。この木は被爆樹木といい、80年前爆心地から約1.3km離れた、中区東白島町の広島逓信局（現在の中国郵政局）の中庭にありました。爆心地方向にさえぎるものがなかったため、熱線と爆風をまともに受け、枝葉はすべてなくなり、幹は爆心側の半分が焼けてえぐられました。ところが、枯れ木同然だったこの木は、翌年の春になって芽吹き、被爆と敗戦の混乱の中で虚脱状態にあった人々に生きる勇気を与えました。その後、中国郵政局の建て替えに伴い、昭和48年（1973年）5月に現在の場所へ移植されました。移植で枯死するのではないかと心配されたアオギリでしたが、その後も毎年種子をつけていました。見ると確かに幹がえぐられたようになっており、原爆のすさまじさが伝わってきました。このアオギリがつけた種子は国内外へ贈られ、多くの2世が元気に育っているとのことでしたが、日野市にも広島より譲り受けた被爆樹木二世のアオギリがありました。日野市役所前の「日野中央公園」に昨年9月に植樹され、すくすくと大きくなっているそうです。今度、そのアオギリを見に行こうと思っています。広島での道徳科や原爆資料館での学びは、私にとって今年のかけがえのない経験の一つになりました。みなさんは今年、どのような経験や思い出に満ちた1年になったでしょうか。

子供たちが令和7年（2025年）の素敵な締めくくりができるよう、私たち教職員一同力を合わせ取り組みますので、ご理解ご協力をよろしくお願ひいたします。